

2学年通信

新宮町立新宮東中学校
令和7年12月12日 第74号
文責:江頭 俊輔

[世界人権週間!]

1948年12月10日の第3回国際連合総会で「世界人権宣言」が採択されたことを記念して、毎年12月10日は世界人権デーとして、記念行事等が催されていると同時に、12月10日までの1週間を「人権週間」として、『人権』について特に考える期間として法務省が設定しています。(左図は法務省が出している今年度の

人権週間のポスターです。)テーマは書いてあるように、「『誰か』のこと じゃない」です。短いけれども、とても深い言葉だと思います。

みなさんも学校の授業はもちろん、インターネットや日々のニュース等を通して、たくさんの人権についての問題を知っていると思います。法務省のHPでは、

「いじめや虐待、性被害等の子どもの人権問題、外国人やアイヌの人々、性的マイノリティー等に対する不当な差別や偏見、部落差別(同和問題)、ハンセン病問題といった多様な人権問題が依然として存在しています。(法務省HP:

<https://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken03.html>)」

こうした問題は、「当事者」として触れてみないと、日本に人権問題として存在していること自体を実感

として味わうことが難しい部分もあります。新宮町ではその正しい理解のために、小学生時代からカリキュラムを組み、人権問題についての理解を促す学習を行っています。なかなか実感しづらい問題だからこそ、これらの問題の解決に向かうためには、一人一人が「自分のこと」として捉えて、お互いの人権について尊重し合う姿勢を大切にしなければなりません。こう考えると、この一言のテーマ「『誰か』のこと じゃない」に込められた想いの深さに気付くことができます。「誰か」の話ではないです。

[誰かのことを思えること!]

昇降口の前、大階段付近にホワイトボードが設置されているのを、みなさんは知っていますか?(右図)これは保給委員会の取組で調理委員さんへのメッセージを書いたお礼に、調理員さんがお忙しい中、切り絵等を用いて送っていただいたメッセージです。

私はこういう積み重ねが、人権を捉える上での土台になるのではないか、と考えています。いつも「当たり前」と食している給食を、作ってくださっている方がいることに注目し、感謝を伝える。自分以外の「誰か」ではなく、自分と同じ「仲間」として考えるきっかけになります。夏は暑い中、衛生面に気を付け調理服で調理をしてくださっています。そんなことまで想像できると、給食を食べるという日常にも「誰か」を思う気持ちが芽生えます。メッセージの中には「毎日の調理は大変なこともあります、給食時間を楽しみにしてくれている姿を思うと、自然と力がわいてきます。」と書かれていました。「誰か」ではなく、自分のこととして受け取って、生活していきましょう。

